

平成21年「緑の募金」実績

23,989,885円

緑の募金にご協力ありがとうございました。

平成21年も多くの鳥取県民の皆さまから多大なご協力をいただきました。

今年度の緑の募金は、緑の募金による森林整備の推進等に関する法律制定後14年目で、第2ステージの4年目にあたり、募金運動を飛躍的に導くための重要な年となっています。社団法人国土緑化推進機構では「緑の募金全国一斉強調月間」を設定し力を入れておりますが、県もこれに対応し、アクションプランを見直すなど募金運動の進展に努めてまいりました。

年間の募金目標を2,800万円に設定して、懸垂幕やテレビ、ラジオ、街頭募金等による呼びかけ等PRを行った結果、前年2,460万円を約60万円下回る前年比97.5%の実績となりました。

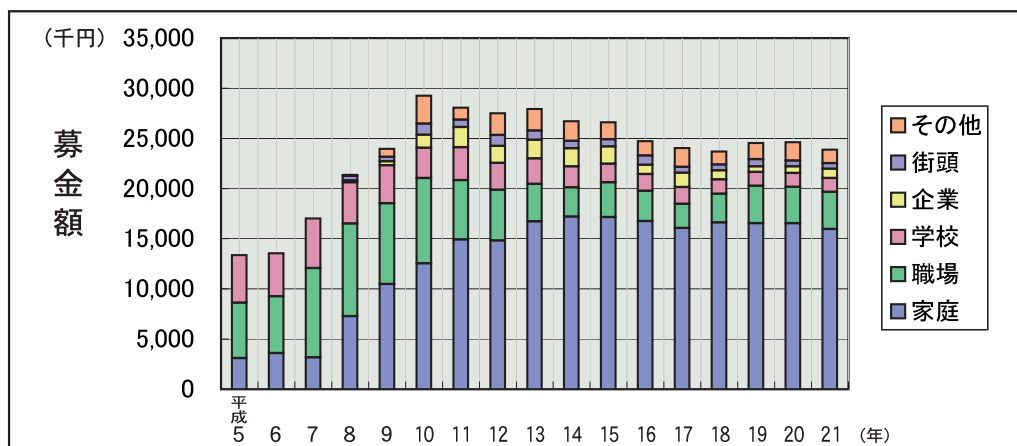
募金の種類別では、家庭募金 1,600万円（66.9%） 職場募金 370万円（15.5%）
 学校募金 139万円（5.8%） 街頭募金 57万円（2.4%）
 企業募金 91万円（3.8%） その他募金 135万円（5.6%）となっております。



皆様にご協力頂いたこの浄財を有効に活用するため、街頭募金、学校募金、家庭募金は募金額の65%を限度として、各市町村支部を通して希望される募金団体に交付し、地域や学校などの緑化に活用してもらい、他の募金については、公募事業により各種団体やみどりの少年団等が行う森林づくりや緑化イベントなどの助成金として交付しました。

「緑の募金」の使途につきましては、外部委員からなる「緑の募金等運営協議会」の意見を聞きながら、適切かつ有効に活用するよう努めています。今後とも一層のご協力をよろしくお願いします。

近年の募金実績の推移



平成21年 緑の募金事業

県民の皆さまのご協力のもと、緑化推進のためのさまざまな事業を行うことができました。

学校林等利活用促進事業

「自然の味覚」に触れる

船岡小学校の東側に位置する『船っ子のもり』は、長年にわたり身近な自然とふれあえる場所として子どもたちに親しまれています。また環境教育を実際に体験できる場としても、貴重な役割を果たしてきました。PTAで組織する父親委員会は、子どもたちにより充実した環境を提供しようと昨年度から「緑の募金事業」の助成を受け、『船っ子のもり』整備に取り組んでいます。



フィールドアスレチックゾーンのロープ張り替えやコース再設置のほか、「ふもと広場」「自然散策路」など新たに作りました。2年目の今年は、「果樹苗植栽」を行いました。私たちが子どもの頃は学校の帰り道で、田んぼのあぜ道で、友だちと行った里山で、クワの実やグミ、山栗などを食べたものです。しかし今は、そんな自然の味覚に触れる機会さえ乏しくなりました。自然の中で「みたり」「さわったり」「あじわったり」することが、子どもたちの感性を高めることにつながると確信します。そんな思いからグミ・クワ・ナツメ・山栗・ユスラウメ・姫リンゴ・ミカン・サクランボ・イチジクなど実のなる苗木を植えました。早いものでは、来年の春にはかわいい実をつけるはずです。子どもたちが口いっぱいほおばる姿が目に見え、今からワクワクしています。

八頭町立船岡小学校父親委員会



地域緑化推進事業

自然体験公園「皆生プレーパーク」誕生

～次世代に引き継ぐ自然～

皆生プレーパーク運営委員会 ト蔵 久子



自然体験公園「皆生プレーパーク」は、元県営皆生温泉公園の跡地(1.7ヘクタール)を自然が残る地域の貴重な財産として、地域で管理し活用できるようにと平成16年から活動を行った結果、10団体で運営委員会を立ち上げ、平成21年3月30日に県との貸付調印式に至りました。今回はその記念事業として、クロマツの植樹に取り組むことに致しました。

以前は豊かなクロマツ林でしたが、近年、松くい虫により枯損して本数が少なくなっており、昔の松林への再現を願って植樹するものです。

11月21日(土)は100名を超す運営委員会のメンバーが集まり、300本の抵抗性クロマツの植樹を行いました。心配された雨も降らず予定より早く植樹が終わり、合わせて清掃活動も出き、最後には豚汁を囲みメンバー同士の交流にもなりました。

皆生プレーパークは背後には日本海(皆生海岸)近くには日野川、皆生温泉もあり、国立公園大山の恵を受けている場所です。以前のような松林を復活することができれば、次世代に自然を引き継ぐことができ、クロマツが年輪を刻むように、この場所でキャンプや水辺の安全教室、自然観察など様々な自然体験学習の輪が広がります。

子どもも大人も体験学習で集える「皆生プレーパーク」を目指しながらクロマツの成長を見守ります。



森林づくりの促進事業

～日野川源流 - 森の再生プロジェクト～

2009-2010年度 米子ロータリークラブ
会長 川崎 寛中



私ども米子ロータリークラブは、昭和29年以来、社会奉仕事業として『町に緑を』をテーマに、米子市とその周辺に植樹と維持を行って参りました。

平成19年秋からは少し視野を広げ、「日野川源流 - 森の再生プロジェクト」に取り組み、植樹事業を積極的に推進しています。

日南町神戸上地内に荒廃した山林（県有地）がある事を知り、日野川源流にほど近いこの地の緑の環境整備をすることにより、県西部地域の森と水の環境改善の一助になればと考えたからです。

本プロジェクトに対して緑の募金より補助金を頂き、厚く感謝申し上げます。

本年度は5月17日に同地にアベマキ・クヌギ・ミズナラ・カシワの苗木計100本を植え、隣接する過去の植樹地の草刈・追肥と樹木の養生を行いました。

当クラブ会員・家族、会員事業所職員、米子ローターアクトクラブ会員に加え、県日野総合事務所、日南町・日野町役場の職員、日野町おしどりグループのボランティア、ボーイスカウト米子第8団から計110名の多数のご参加をいただき、荒天の中、無事終了できた事に感謝いたします。

自然と生育環境の厳しい土地ですが、少しずつ手を入れることで樹木の状態や活着率も改善し始めました。

出来ることを少しずつ着実に一步一步継続して参りたいと思っております。



学校緑化推進事業

～木々に名札を付けよう～

鳥取市立気高中学校 校長 石谷 充

本校は、鳥取県東部の周囲を海と山に囲まれた自然豊かな地域に位置しています。敷地内にも、生徒玄関や中庭をはじめ数多くの樹木が植えてあるのですが、生徒の多くは、毎日目にする樹木の名前すら知らないのが実態です。

そこで、校地内にある樹木の樹銘板づくりをとおして、自然に対する興味関心を高め、緑化意識の高揚を図ろうと考えました。

実際には、選択「理科」の授業の一単元として次に挙げる4つの取り組みを行いました。

- 外部講師を招き、校地内の樹木について学習する。
- 説明を受けた樹木の写真を撮影し、その樹木の名前や特徴を調べる。
- 敷地内の樹木マップを作成し、文化祭で展示する。
- 作成した樹銘板をそれぞれの樹木に取り付ける。

今回の取り組みを通じて、敷地内の60本の樹に“名札”を付けることができました。まずは、目の前にある“樹”に関心を示してくれればと思っています。



みどりの少年団交流集会

「みどりの少年団交流集会」は、子どもたちに森林の中での相互交流や学習を通してみどりの大切さを学んでもらうことを目的として、毎年実施しています。

平成21年は、8月19日～21日の2泊3日で、県立大山青年の家において実施し、倉吉市北谷、琴浦町八橋、米子市淀江、車尾、成実、箕蚊屋の6小学校みどりの少年団、総勢58名の参加となりました。

3日間とも天候に恵まれ、多くの先生や、指導者の方々のご協力のおかげで、予定していた日程をすべて滞りなく実施することができ、団員は元気に活動し交流を深めることができました。

内容

1日目

ウッドクラフト

野外炊飯（ロコモコ）

星空観察

2日目

自然観察、

カヌー教室（赤松の池）

キャンプファイヤー

3日目

森林作業（ヒノキ3年生の下刈り）



喜寿記念樹贈呈事業

長寿をお祝いし緑を育てることの大切さを次代に引き継いでもらうための「喜寿記念樹贈呈事業」を本年も実施しました。昭和8年生まれの方（77歳）を対象に募集し、77名に贈呈しました。

記念樹は「紅梅」の樹高80cm程度のもので、喜寿記念樹の文字をあしらった段ボール箱に箱詰めし、10月9日に宅配便で発送しました。

喜寿記念樹の申し込みにあたっての皆様の一言は、これまでの人生や喜寿を迎えた喜び、健康への気遣いや家族へのおもい、明日へ向かっての希望などそれぞれの方の想いが詰まっており、贈る側も心に残る事業でした。写真は、記念樹を受け取られた方のお一人です。大変喜んで頂きました。



緑と水の森林基金事業

～ 木工工作キット配布事業の実施 ～

昨年度から森林や緑の大切さ、木材の良さ等を子どもたちに知って頂くことを目的に、小中学校を対象に実施している「木工工作キット配布事業」の本年度の実施報告が次々届いております。

実施報告の中で、生徒たちがその材料を使って、先生や父兄の方に教わりながら、木工工作をした様子を作文にして報告してくれています。

最近、機会が少なくなった木工工作を行って、工作を始めるまでの心配や鋸を使って真っ直ぐ挽くことの難しさ、金鋸で釘を曲げずに打つ苦労、そしてみんなで工作することの楽しさなどがつつられています。

このような事業を通して、子どもたちの緑化や木材への関心につながることを期待したいと思います。

(写真は鳥取市立西郷小学校の工作の様子)



第33回 全国育樹祭が長崎県で開催される

第33回 全国育樹祭が平成21年10月4日(日)長崎県雲仙市の県立百花台公園で「未来へと夢をつないで育てる緑」を大会テーマとして、約7,500人が参加して盛大に開催されました。

式典に先立ち、皇太子殿下が平成2年の第41回全国植樹祭で天皇、皇后両陛下が植栽されたヒノキの手入れ(枝打ち)をされ、その後式典では、江田大会会長、金子長崎県知事の挨拶に続いて、「森林は美しく豊かな国づくりの基礎」、「森林を守り育てる活動の輪がここ長崎から世界へ、そして未来へ広がることを願います」とお言葉を述べられました。

その後、みどりの少年団活動発表や緑化功労者の表彰、創作ダンス「森林と人との共生」、林業後継者の誓いの言葉などが述べられ、「循環型社会の実現と国民参加の森林づくりの推進」をうたった大会宣言を採択。来年度の全国植樹祭を群馬県に引き継いで大会を終了しました。

また、前日は併催行事の育林技術交流会、全国緑の少年団活動発表大会、森林・林業機械展示実演会が各地で開催され、多くの人々が参加していました。

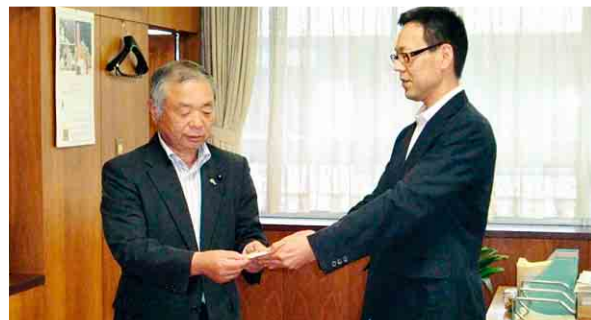


緑の募金贈呈式

「緑の募金贈呈式」がそれぞれ県議会議長室で行われました。
また、三洋電機コンシューマエレクトロニクス株式会社様からは8月5日、緑化推進委員会事務局で受け取らせて頂きました。ありがとうございました。



11月30日、コカ・コーラウエストスポーツパーク川口久光園長様より小谷理事長に贈呈されました。10月31日に開催された「緑の感謝祭」の収益金の一部を「緑の募金」としてご寄付されたものです。



2月9日及び8月10日の2回、株式会社イブキ社長伊吹直様より小谷理事長に贈呈されました。
イブキブランド鶏卵パックのラベルに「緑の募金ロゴマーク」を付け、その売り上げの一部を「緑の募金」としてご寄付されたものです。



12月7日、株式会社新日本海新聞社田中仁成執行役員営業局長様より小谷理事長に贈呈されました。7月、10月の「緑の募金キャンペーン」にちなんで紙面掲載した「森林保全に関する特集記事」の売り上げの一部を、県内の緑化事業に役立ててもらおうと寄附されたものです。



緑の募金は多くの方々に支えられています。



ご寄付いただいた浄財は、緑の募金の趣旨にのっとり大切に活用させていただきます。
ありがとうございました。

緑の募金感謝状贈呈式

今年度の緑の募金高額寄附者のうち、平成21年12月22日に受領を希望された方々に、小谷理事長より県議会議長室で感謝状が贈呈されました。

感謝状を受けられた方は、尾崎誠吉さんほか2名で、3名とも県の林業関係職員、長年にわたって森林の整備や緑化の普及にかかわってこれ、今年の3月に退職されたことから、これを記念し県内の緑化に役立ててもらおうと、緑の募金に高額を寄付されたものです。



平成21年度「森の名手・名人」の認定

森林の文化や技術の伝承を目指す“もりのくににっぽん運動”の一環として社団法人国土緑化推進機構が認定する平成21年度「森の名手・名人」に、鳥取県からは森づくり部門で三朝町の岩本輝義さん、森の伝承・文化部門で三朝町の澤成広さん・澤成節子さんの3名が認定されました。

認定証は、10月13日、三朝町役場のご協力により役場職員の皆さまが参加して伝達式が行われ、席上社団法人鳥取県緑化推進委員会 小谷 茂 理事長より伝達されました。

岩本輝義さんは中部森林組合職員として長年木材の伐採作業に携わり、特に吊り切りの技術に優れ、県中部地区における神社や民家等において、隣接する危険な高木の伐採や枝梢の処理など、地域住民から頼りにされておられます。

澤成広・節子さんご夫妻は三朝町大谷地区に自生する湿性植物のガマを使い、この地区伝統の「大谷カバン」を制作されておられます。これまで山林作業や農作業、山菜採りなど生活の必需品として重宝されてきた大谷カバンの制作者は過疎化とともに少なくなり、今では澤成さん夫妻のみであり、貴重な伝承技術として次の世代につなげる必要があります。今回認定された3人は、現在後継者の育成にも力を入れておられ、技術の伝承が期待されます。

今回の認定で鳥取県内の認定者は合わせて20名になりました。

（森づくり部門）

岩本輝義さん



伐採指導中の岩本さん



（森の伝承・文化部門）

澤成 広さん
澤成節子さん夫妻



大谷カバン制作中の澤成節子さん



「緑の募金チャリティーカラオケコンサート」実施される



9月23日、倉吉市のパープルタウン中央広場において、「緑の募金チャリティーカラオケコンサート」が実施されました。

パープルタウン(株)では、緑の大切さをPRするとともに、森林整備などを行う緑の募金に協力しようと、カラオケ愛好者グループ「桃源歌謡倶楽部」主催での開催を計画されました。

当日は、地元老人ホームの入所者も招待され、会場内には「緑の募金箱や緑の募金の旗」が設置される中、歌謡倶楽部のメンバーら11人が参加して歌謡ショウが繰り広げられました。

一方、パープルタウン入り口では、河北小学校みどりの少年団の皆さまのご協力により、多くの街頭募金を頂くことができました。ありがとうございました。

イオン日吉津店でのイエローシートキャンペーン

8月11日（火）イエローシートキャンペーンが実施され、本委員会も米子市成実小学校みどりの少年団4人の皆さまと引率の先生のご協力を得て参加しました。

当日は、夏休みの忙しい中、そして暑い中、精一杯シート集め（募金活動）に頑張って頂き成果を上げることができました。ありがとうございました。



国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール審査結果

鳥取県と共催で実施した「22年度様国土緑化・育樹運動ポスター原画コンクール」鳥取県予選は、小学校の部5校20点、中学校の部4校35点、高等学校の部1校3点の応募があり、10月8日審査の結果次の皆さんが受賞されました。

なお、鳥取県知事賞、鳥取県教育委員会教育長賞及び社団法人鳥取県緑化推進委員会理事長賞は、社団法人国土緑化推進機構が実施する中央審査に応募しました。来年もご応募をよろしくお願い致します。

敬称略

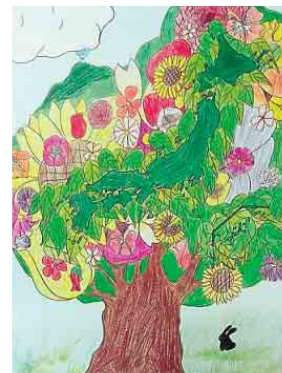
区 分	小学校の部			中学校の部			高等学校の部		
	学校名	氏 名	学年	学校名	氏 名	学年	学校名	氏 名	学年
鳥 取 県 知 事 賞	宝 木 小学校	森本 涼太	6	気 高 中学校	山本 美莉	2	鳥取緑風 高 校	茗荷 遥	3
鳥取県教育委員会 教 育 長 賞	宝 木 小学校	岩田美樹子	6	河 原 中学校	下田 寛可	2	鳥取緑風 高 校	日下部里実	2
鳥 取 県 緑 化 推 進 委 員 会 理 事 長 賞	赤 碕 小学校	池田 和志	6	気 高 中学校	田中友里菜	1			
佳 作	宝 木 小学校	藤原 泉羽	6	気 高 中学校	藤田由理子	2	鳥取緑風 高 校	中根 真吾	4
	逢 坂 小学校	田中 成美	6	鹿 野 中学校	池田 有希	1			



(小学校の部) 知事賞
宝木小学校 6年
森本 涼太



(中学校の部) 知事賞
気高中学校 2年
山本 美莉



(高等学校の部) 知事賞
鳥取緑風高校 3年
茗荷 遥

緑化推進委員会の職員の交替



田中紀子書記

平成12年から当委員会の書記を務められた森原和美さんが御結婚に伴い、平成21年7月31日をもって退職されました。おめでとうございます。

これに伴い、8月1日付けで後任の田中紀子書記に引き継がれました。

「初めてのことばかりで戸惑いの連続ですが、精一杯頑張っていこうと思っています。どうぞよろしくお願い致します。」

なお、前任の森原和美さんは、12月10日に東京で開催された全国緑化推進委員会連絡協議会で役員表彰要項に基づき功労者として表彰されたことを合わせて報告させていただきます。



会員募集のお願い

社団法人鳥取県緑化推進委員会は、県民の皆様による「緑の募金」等を財源として、森林の整備や緑化の推進を通じて、緑豊かな住みよい県土の発展及び国際緑化に寄与することを目的として設立された団体です。

本委員会の組織運営は、正会員（県、市町村、団体、個人）及び賛助会員（企業）の皆様からの会費を主要な財源としており、県民の皆様のご理解、ご協力の上になりたっています。趣旨にご賛同頂ける皆様のご加入を心よりお願い申し上げます。

会員年会費：個人・団体・企業 一口 1万円

お問い合わせ：〒680-8570

鳥取市東町一丁目220

社団法人鳥取県緑化推進委員会

(鳥取県庁森林・林業総室内)

T E L : 0857-26-7416

F A X : 0857-26-7308

Email: info@tottori-green.or.jp